



アクセスマップ

賀田城までの交通アクセス



- 広島方面から / 2 時間
広島北 IC～(山陽道・広島道・中国道)～三次 IC～(R54)～飯南町
広島市～(R54)～飯南町
 - 松江市方面から / 1 時間15分
松江市～(松江道)吉田掛合 飯南 IC～(R54)～飯南町
 - 九州方面から / 4 時間
門司 IC～(中国道)～三次 IC～(R54)～飯南町
 - 大阪方面から / 4 時間30分
吹田 IC～(中国道)～(松江道)口和 IC～(R54)～飯南町
 - 岡山方面から / 2時間
(山陽道)～(尾道松江道)～三次東 IC～(R54)～飯南町
- ◎ 駐車は「加田の湯」駐車場をご利用ください。

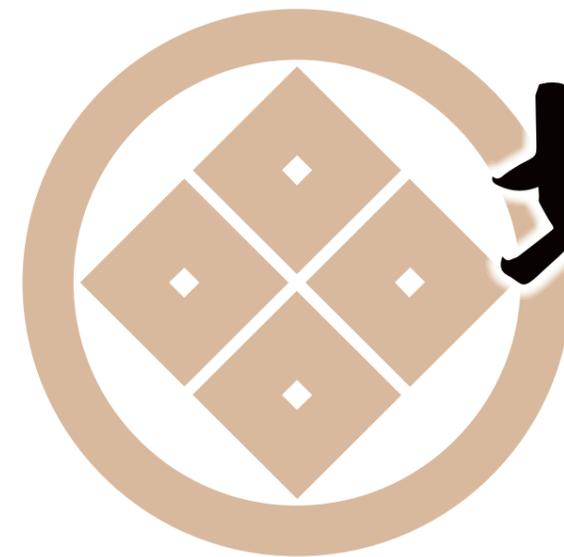
お問合せ先

〒690-3401 島根県飯石郡飯南町野萱300-1 来島公民館 TEL 0854-76-2393 FAX 0854-76-2845	〒690-3402 島根県飯石郡飯南町下来島707-2 加田の湯 TEL 0854-76-3357
---	---



写真:加田の湯

賀田城



中世の山城『賀田城』

賀田城は飯南町下来島の標高494mの松本山にある。『赤穴家系図』には、石見の国人の佐波実連の弟・秀清が、都賀(美郷町)の高巻城に籠城したものの、後に下来島の高名和城に籠ったという。この高名和城を賀田城とする説もあるが詳細は不明である。

永禄5年(1562年)、毛利氏は石見を抑え出雲に侵攻してきた。この頃には出雲国人の中にも、湯原春綱や米原綱寛など毛利氏へ味方するものが現れた。瀬戸山城の赤穴氏も議論の末、毛利氏へ味方することとなった。しかし、赤穴氏家臣の烏田権兵衛、森田左衛門は反発し、賀田城へ籠った。『雲陽軍実記』には、一族郎党を連れ、琴が峯(琴引山)に陣屋を構え、浪人などを集め、その数2000人にもなったという。

毛利氏が赤穴に着陣すると、烏田・森田は突根尾原で逆茂木(先端をとがらせた木の枝を外側に向けて並べたもの)で往来を防ぎ合戦となった。その後、烏田は討死し、森田は逃れたという。

城跡は、虎口や城道も明確で連続堅堀群や土塁などもあり、注目される山城である。



賀田城のみどころ

賀田城は東西350mにおよぶ山城です。
連続竪堀群や土塁囲みの曲輪など特徴的な遺構がのこり曲輪もかなり平坦にならされ、建物の存在も伺わせます。
まさに赤穴瀬戸山城とともに、当地を代表する山城と言えるでしょう。

420

430

440

450

460

470

480



IVにある案内板

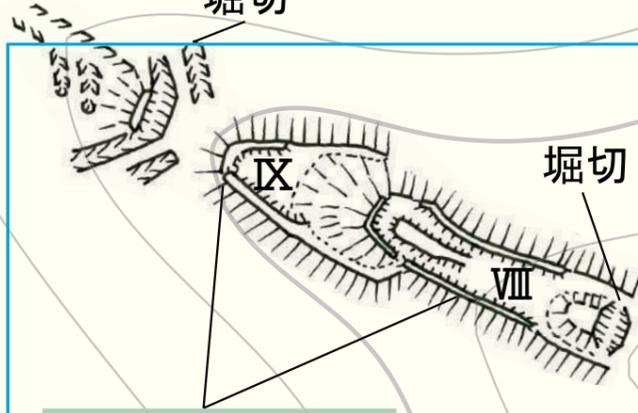
通称『要害平』

東側が見わたせ琴引山を望む
II・IIIの南側は、岩が露出し
天然の要害となっている



要害平から琴引山を望む

堀切



堀切



IVから主郭への虎口

主郭

中心部は一段高くなっている
東側に低い土塁がある
北西部にIVに降りる
虎口がある

ほりきり堀切

尾根筋に直角に掘りこんだ空堀

どるいかにくるわ 土塁囲みの曲輪

曲輪の周囲に土塁があり
曲輪全体を囲んでいる
土塁の切れ目からIXも
土塁で囲まれている



土塁囲みの曲輪

郭IV

方形に区画したところや
一部石積みも見られ、建物が
あったことが感じられる

通称『十三曲がり』

つづら折れとなった城道
城道はさらに下方まで続いている

こぐち

虎口 城あるいは各曲輪の出入口

連続竪堀群



曲輪III東側の連続堀切

たてほり 竪堀

等高線に対して垂直に
山腹に掘られた堀

連続竪堀群

防御のための施設で畝状空堀群とも呼ぶ
出雲地方ではこれだけの
本数を敷設したものは数少ない

賀田城跡

飯南町下米島
調査日：2021年5月27日
作図：高屋茂男

0 100m

賀田城解説マップ 監修 高屋茂男



登山道入り口



●加田の湯
→ 国道184号